“インバウンド旅行者の水彩の森工場見学の様子”

B2 ニュースレター

2023/3/31

令和４年度を振り返って

今年度を振り返ると、上半期は新型コロナウイルス感染症の重症化率や死亡率が減少する一方で、新たな変異株の出現もあり with h コロナの行動が続きました。コロナ禍における観光協会の業務では、令和 3 年度と同様にふるさと応援宅配便事業の事務局を務めました。新型コロナに対する支援事業ではありますが、3 回目となる令和 4 年度 6 月は町民の皆様にも認知されたこともあり 1,000 セットを 2 日間で完売することができました。

グリーンシーズンは全国旅行支援制度を活用し、手ぶらでつり体験に 28 組、ブナ林ウォークに 30 組の方々が参加し、黒松内の各種アクティビを楽しんでもらいました。一人当たりの消費単価と滞在時間では、集客数は少ないものの過去最高であった平成 30 年をわずかに上回ることができました。

外国人の入国規制が徐々に緩和され、9 月には個人旅行客の受け入れが始まりました。これによりインバウンド観光が約 3 年ぶりに再開しました。2 月に入り、黒松内町でもニセコに滞在する外国人グループ 4 組がブナ林でのスノーシュー体験や餅つき、和太鼓といった文化体験に訪れました。その中には、3 回目の来町となるシンガポール人ご夫妻も含まれています。10 月以降の外国人旅行者の中にはリピーター客の割合が 2 割となり、1 泊 2 日で黒松内を滞在する方々が 4 組いました。

2023 年 9 月には世界中のアドベンチャートラベルのプロや専門家が北海道に集結し、国際商談会が開催されます。私たちもアドベンチャートラベラーに向け、黒松内の自然と暮らしぶりを体感してもらえるよう準備を進めて参ります。　（事務局長・本間）

～次回の観光協会主催イベント～
黒松内岳山開き

こちら黒松内町文化部 Vol.4
～太鼓クラブ～
今年度からの新コーナー。黒松内で活動している文化系サークルを取材します。第 4 回は“太鼓クラブ”です。　ページ 2

フットパスの輪 Vol.4
第 4 回はふらのフットパス協会会長である佐川　泰正（さがわ　やすまさ）さんに寄稿していただきました。　ページ 2

じり通信 No.27　**文：山本竜也**
「はんかくさい」など現在でも使われている北海道方言の今後について筆者が考えを綴りました。　ページ 3

くろまかない飯
今号のくろまかない飯は休載です。

＜＜協会主催・協力イベント＞＞

黒松内岳山開き
５月２０日（土）

毎年恒例の黒松内岳山開きです。みんなで新緑の黒松内岳に登りましょう！

春のフットパスイベント
５月２８日（日）

今年は春に第一回イベントを開催。コースなど詳細が決まりましたらフェイスブック等で随時お知らせいたします。

第４回は＜黒松内輪屋太鼓クラブ＞。
代表の大谷英行さんに太鼓クラブの活動について伺いました。

代表
大谷英行さん

太鼓を叩くとストレス解消になりますし、チーム演奏でリズムが揃った時は快感にひたれます♪
また、町内で開催するビーフ天国や文化祭、盆踊りなどでパフォーマンスする当クラブは、各イベントを盛り上げる重要な役割を果たしています。
今後は他の楽器とのコラボも積極的に行っていきますので
音楽の世界観を広めたい方にもおススメです (^^♪

＜黒松内輪屋太鼓クラブ概要＞
入会対象者：太鼓を愛好する人たちとの交流と親睦を図り、お互いの調和と技術の向上を意図し、地域文化の発展と和太鼓の普及を図るという趣旨に賛同してくれる町民の方
活動日時：木曜日　夜７時から１時間程度
活動内容：練習、イベントでの演奏、後志管内の各団体とのコラボ、観光協会と行う異文化体験会
お問い合わせ先：事務局・阪井 /090-4879-5840

＜事務局＞メンバーは小学生から大人まで在籍し、一丸となって太鼓を叩きます。見ているだけでも心が躍りますので、まずは見学だけでもいかがでしょうか♬（事務局・古本）

フットパスの輪 vol.4　「フットパスに“取り付かれた”理由」

文：佐川泰正（ふらのフットパス協会 会長（※旧上富良野フットパス愛好会 会長）

フットパスに取り付かれ 15 年が過ぎました。小川巌氏が私にフットパスの魅力を教えてくれたのがきっかけです。そしてその年、ニセコでの全道フットパスの集いに参加し、フットパスとは単に歩く事と思っていた私に、樹々や草花・野鳥等とふれあいながら「道歩き」の楽しさと、その奥義を体現してくれたのが工藤達人氏(FNH 会長)でした。更に翌年、黒松内でのフットパス国際フォーラムに参加した際、出発直前に妻の体調が前日までの疲れから突然崩れ、フットパスフォーラムの重責の任にありながらも救急な介護と病院への搬送等、妻の世話に専念してくれたのが、当時黒松内町役場の企画調整課主幹、新川雅幸氏でした。今でも感謝の念が時々甦ってきます。以来私はますますフットパスの魅力に取り付かれ、上富良野に 12 のコースを設定し、全道フットパスの集いと全国大会を開催させていただく事が出来ました。そして昨年、農家の家をこつこつと改修し「フットパスの舎（いえ）」を完成させるに至り、また更なる繋がりを深める為、当会の名前を「ふらのフットパス協会」としました。活動の幅を広げられるのも全てはフットパス関係者・愛好者・仲間との繋がりのお陰です。

フットパスは点と点を線で結び、地域発展の為の資源となる事は勿論ではありますが、人と人との繋がりもまた結ばれるようになり、益々強いフットパスの輪が築かれていくと思います。フットパスの道は人生の道でもあります。道から多くの事が学べます。是非とも山と丘を楽しむ上富良野町にお越し下さい。

ふらのフットパス協会会長
佐川　泰正さん

次回は　えにわフットパス愛好会会長　前田孝雄さん　です。

じり通信　No.27　「方言研究の集大成」　文：山本竜也

東北から北海道に転勤してきて間もない頃、職場で何の話題をしていたのか、ある人がとつぜん言った。「はんかくさいなあ」。おどろいた。『全国アホ・バカ分布考』（松本修）を読んで、そんな言葉があると知ってはいたが、実際に使う人をはじめて見た。学生時代を札幌で過ごしたといっても、周囲は同年代ばかり。しかも７～８割は道外出身者である。北海道弁にふれる機会はほとんどなかった。その後、生粋の道産子たちと知り合ううち、「はんかくさい」どころか、「あずましい」「ばくる」「ごんぼほる」など、さまざまな北海道弁が生きていることを知った。

この１月、余市町の方言研究家、見野久幸さんから、「北海道方言と東北・新潟方言の地理的・年齢的勢力分布と動態（２）」と題する 248 ページの pdf ファイルが送られてきた。北海道と東北・新潟各県で 23 年かけてアンケート調査を行った集大成である。「アオタン（あざ）」「イッショ（いいだろう）」「モッチョ（くすぐったい）」「スガ（つらら）」「バクル（取り替える）」などが、道内・各県でどう分布しているのか、若年層と高年層の違いはどうなっているのか、細かく調査し、論じており、非常に勉強になった。

見野さんに北海道方言研究のこれからを聞いてみた。ひとつの課題は日常会話の録音だという。いま、北海道方言を色濃く残している道南でも共通語が広まり、集落が消えつつある。なにげない会話を今のうちに録音しておけば、のちのちの研究に役に立つ。北海道方言研究を引き継ぐ人が現れてほしい。

見野さんの作った余市方言てぬぐい。
黒松内で使っている言葉もあるかしら

「冬限定～スノーシューハイク～寿都鉄道の廃線跡をゆく」イベント裏話

２月 11 日（土）に開催した当イベント。実はこのコースを提案したのは辻野健治ガイドでした。「道は平たんだけど鉄道遺構がある。この道は冬にしか行けないし、これまであまり人が行ってない道だから行きたい！」といった熱い思いがあり寿都鉄道の廃線跡を歩くこととなりました。イベント当日は天候に恵まれ小雪が軽く舞う程度。辻野ガイドを先頭に約 30 人の列が雪の上をスノーシューやかんじきを履いて進みました。

本来であれば 2 月のこの時期、まだ雪深くとても歩きづらいのですが、イベント前日に辻野ガイド夫妻がコースの前半部分をトレースしてくださったおかげで、全長 4.3km のコースを参加者たちは体力に余力を残し歩ききることができました。

また、道中では辻野ガイドがいつもの自然ネタだけでなく寿都鉄道にまつわる歴史ネタを適度に織り交ぜながらガイドし、参加者たちを大いに楽しませました。辻野ガイドがこの様な芸当ができたのは、イベント開催決定からイベント当日までに寿都鉄道の歴史本６冊を読み込み、さらに町内の生き字引に直接会って話を聞き、猛勉強されたためでした。今回はイベントに関わるガイドさんの裏話をレポートさせていただきましたが、これはほんの一部です。この他にも参加者の見えないところで様々な気遣いをし、イベントを安全に楽しく成功させようとされています。ガイドさんに改めて感謝しつつ、事務局も精進して参ります。

第 9 回・第 10 回　観光交流ネットワークミーティング開催

12 月 8 日に歌才自然の家環境学習センターで第 9 回目、2 月 1 5 日に黒松内温泉大広間で第 10 回目の観光交流ネットワークミーティングが行われました。

第 9 回は函館でインバウンド向け英語ガイドをしている山田沙織さん、噴火湾とようら観光協会の田中博子さんをお招きし、山田さんからは「函館・大沼地域でのアドベンチャートラベルの取り組み」についての講演、田中さんからは 11 月に行われた「はしっこ同盟アドベンチャートラベル向けモニターツアー」についての報告を行っていただきました。

第 10 回は「森林サービス産業・くろまつないの食を活かすには？」と題して、これから実現を目指すヘルスツーリズムの中でも特に「食」をテーマに、後志リハビリセンター管理栄養士の吉田善哉さんをお招きし、黒松内の食材を使用した健康的な食について理解を深めました。試食として黒松内産奈川そばの実を使用したおにぎりなどが提供され、改めて黒松内の食材の可能性に触れる機会となりました。

年に 2 回、冬期に開催してきた観光交流ネットワークミーティングも 5 年目、第 10 回を迎えました。最初は町内の事業者同士でお互いの取り組みを発表するところから始まり、コロナ禍でなかなか室内で集まっての会合が難しい中でも野外でのガイド講習など、取り組みを続け、徐々に周辺地域の方をお招きするなど交流の範囲も広がってきました。今後も観光交流ネットワークミーティングは続きますので、より一層の町内観光事業者、近隣町村との連携を深めていければと思います。

エコモビリティタオル
ドリンクボトルを商品開発しました

サイクリング、トレッキング、カヌーの 3 つのアクティビティを用いて黒松内低地帯の周遊観光を推進する事業『エコモビリティタウン推進事業』（通称エコモビ）の一環としてエコモビタオル、ドリンクボトルの 2 商品を開発しました。町内を訪れた方にアクティビティを行いながら周遊観光できる事を認知していただく事を目的として、課題である集客を促進すべく汎用性の高いものを商品として考案しました。デザインについては黒松内低地帯を表現しており右端は内浦湾（太平洋）、左端は寿都湾（日本海）、その中でアクティビティを行っている姿をシンプルに描きました。普段使いも出来るように白をベースとして輪郭を水色としました。

町内限定販売とし道の駅が主な販売先となり、販売価格はタオルが 800 円（税込み）、ドリンクボトルが 1,800 円（税込み）を予定しています。

観光協会 HP にて「B2] バックナンバーがご覧になれます。www.bunasatotourism.com
印刷版をご希望の方は観光協会までご連絡下さい。

発行人：一社）黒松内町観光協会　発行日：2023 年 3 月 31 日　次回発行予定は 6 月末
TEL：0136-72-3597　FAX:0136-75-7070　MAIL：bunasatotourism@gmail.com